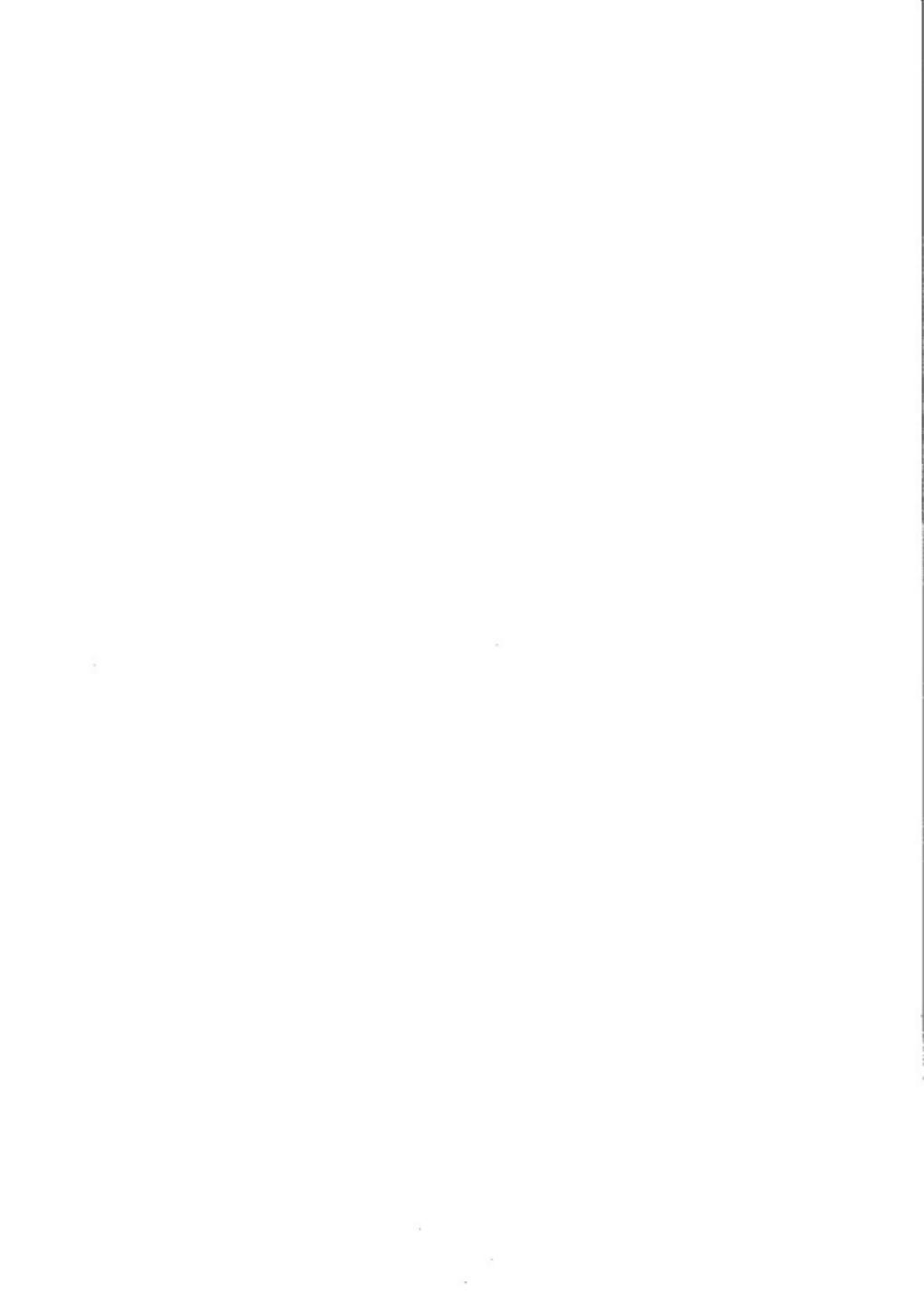


教興寺跡

第3次調査

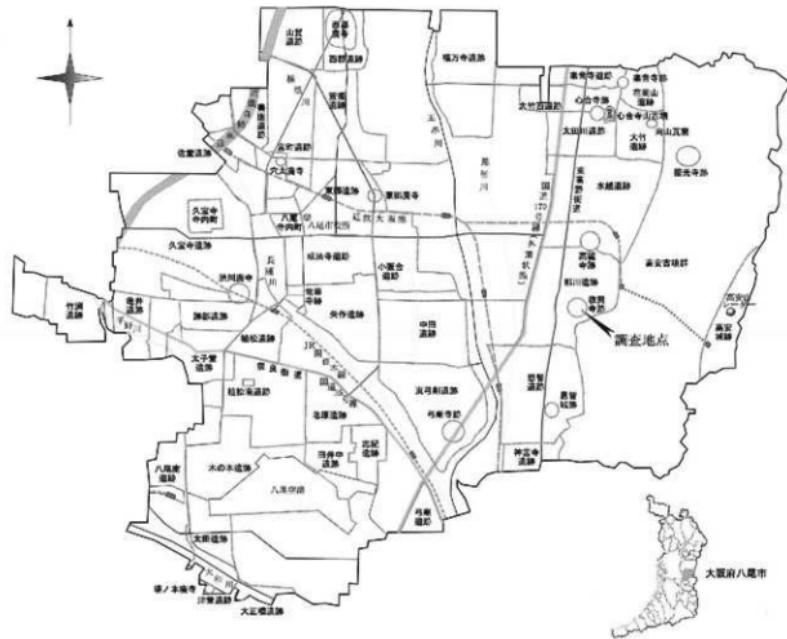
2008年

財団法人 八尾市文化財調査研究会



教興寺跡

第3次調査



2008年

財団法人 八尾市文化財調査研究会

はしがき

教興寺跡は八尾市の東部に位置し、生駒山地のなかでも高安山の麓に広がる扇状地にあります。この扇状地付近は古来より人々の生活の場として栄えていた地域であり、先人が残した貴重な文化遺産が数多く遺存しております。

近年、都市開発に伴い各種土木工事が実施され、破壊され消滅する埋蔵文化財が存在します。それらに対して事前の発掘調査を実施し、記録保存をおこない、先人が残してくれた貴重な文化財を後世に伝承することが我々の責務であると認識する次第であります。

教興寺跡は過去の発掘調査では、縄文時代の人々が居住していたことや、奈良時代の寺域の存在、および鎌倉時代から近世に至る居住域を確認しています。

この度、平成19年度に実施いたしました寺池改修工事に伴う発掘調査の報告書を刊行する運びとなりました。本調査では室町時代の遺構を確認し、寺池の南東部に当時代の居住域が存在していることが明らかになりました。

本書が学術研究の資料として、また文化財保護への啓発に広く活用されることを願うものであります。

最後になりましたが、この発掘調査が、関係諸機関及び地元の皆様の多大なる御理解と御協力によって進めることができましたことに深く感謝の意を表します。今後とも文化財保護に一層の御指導ならびに御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年12月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

理事長 岩崎 健二

例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市教興寺六丁目1番地で実施した寺池改修工事に伴う教興寺跡第3次発掘調査(KO2007-3)の発掘調査報告書である。
1. 本調査は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 調査は当調査研究会の西村公助が担当した。
1. 現地調査は平成19年12月19日に着手し平成20年2月6日に終了した。調査面積は約126m²である。
1. 現地調査には、岩本順子・村井厚三・吉川一栄・和田直樹の参加を得た。(敬称略、五十音順)
1. 内業整理は下記が参加し、現地調査終了後に着手して平成20年9月30日をもって終了した。
(敬称略、五十音順)

遺物実測－中村百合

図面トレース－西村

遺物写真撮影－木村健明(当研究会嘱託)・西村

1. 本書の執筆及び編集は西村が行った。

1. 調査に際しては、写真・実測図を作成している。市民の方々に広く利用されることを希望する。

凡　　例

1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2500分の1地形図(平成8年7月編纂)を基に作成した。
1. 本書で用いた高さの基準は東京湾標準潮位(T.P.)である。
1. 本書で用いた方位は国土地理院第VI座標系の座標北を示している。
1. 土色については、『新版 標準土色帖』1996 農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所色票監修を使用した。

本　文　目　次

| | |
|---------------|---|
| 第1章 はじめ | 1 |
| 第2章 調査概要 | 3 |
| 第1節 調査の方法と経過 | 3 |
| 第2節 層序 | 3 |
| 第3節 検出遺構と出土遺物 | 5 |
| 第3章 まとめ | 9 |

第1章 はじめに

教興寺跡は、八尾市の東部、現在の行政区画の教興寺六～七丁目・黒谷三～四丁目の各一部に存在したと推定される古代寺院である。当寺跡は、生駒山地西麓に広がる扇状地上の標高約20～30mに存在し、東高野街道と東西に通る信貴道との交差点に位置する。当寺跡は、郡川遺跡の範囲に含まれ、当遺跡の周辺には北に水越遺跡、東に高安古墳群、南に恩智遺跡が存在している。

当寺跡内では八尾市教育委員会(以下市教委)、八尾市文化財調査研究会(以下研究会)が発掘調査を実施しており、縄文時代から近世の遺構・遺物が検出されている。今回の調査地の周辺では、北に約100m地点で昭和57年度に市教委が教興寺の調査(以下市教委教興寺調査)を行っており、平安～近世の瓦の出土および室町～江戸時代の遺構を検出している(米田1983)。また、西約50m地点には平成3年度に研究会が実施した第1次調査地(以下1次)があり、5世紀末～6世紀前半の古墳および奈良時代の遺構を検出している。ここでは特に飛鳥時代～中世にわたる瓦が多数出土しており、当寺跡は飛鳥時代から存在していたことが明らかになった(坪田2002)。さらに、南に隣接する地点では平成4年度に研究会が実施した第2次調査地(以下2次)があり、縄文時代中期末の遺構・遺物を検出している(坪田2002)。

表1 周辺の調査一覧表

| 調査名 | 調査主体(図1掲載略号) | 調査年月 | 文献 | 発行年 |
|------------------------|------------------|--------------------------|------|-----|
| 教興寺跡 市教委 | 昭和56年2月 | 八尾市文化財調査報告9 | 1983 | |
| 教興寺跡 市教委(91-326) | 平成3年10月 | 八尾市文化財調査報告26 | 1992 | |
| 教興寺跡 研究会(K0091-1) | 平成3年12月～4年1月 | (財)八尾市文化財調査研究会報告72 | 2002 | |
| 教興寺跡 研究会(K0092-2) | 平成4年11月～12月 | (財)八尾市文化財調査研究会報告72 | 2002 | |
| 教興寺跡 研究会(2006-98) | 平成18年10月 | 八尾市文化財調査報告55 | 2007 | |
| 教興寺跡 研究会(K02007-3) | 平成19年12月～平成20年2月 | 今後の調査 | | |
| 郡川 市教委(63-193) | 昭和63年9月 | 八尾市文化財調査報告19 | 1989 | |
| 郡川 市教委(89-224) | 平成元年7月 | 八尾市文化財調査報告20 | 1990 | |
| 郡川 市教委(89-032) | 平成元年8月 | 八尾市文化財調査報告21 | 1990 | |
| 郡川 市教委(千鶴池) | 平成元年11月 | 八尾市文化財調査報告21 | 1990 | |
| 郡川 市教委(89-399) | 平成2年1月 | 八尾市文化財調査報告21 | 1990 | |
| 郡川 研究会(K089-1) | 平成2年2月 | (財)八尾市文化財調査研究会報告37 | 1997 | |
| 郡川 研究会(K090-2) | 平成2年5月～8月 | (財)八尾市文化財調査研究会報告64 | 1999 | |
| 郡川 市教委(90-105) | 平成2年5月 | 八尾市文化財調査報告23 | 1991 | |
| 郡川 市教委(93-075) | 平成5年7月～8月 | 八尾市文化財調査報告29 | 1994 | |
| 郡川 市教委(96-275) | 平成8年9月 | 八尾市文化財調査報告36 | 1997 | |
| 郡川 市教委(97-696) | 平成10年3月 | 八尾市文化財調査報告40 | 1999 | |
| 郡川 市教委(98-400) | 平成10年12月 | 八尾市文化財調査報告40 | 1999 | |
| 郡川 研究会(2002-65) | 平成14年11月 | 八尾市文化財調査報告48 | 2003 | |
| 郡川 研究会(2002-304) | 平成15年9月 | 八尾市文化財調査報告49 | 2004 | |
| 郡川 研究会(2003-219) | 平成15年10月 | 八尾市文化財調査報告49 | 2004 | |
| 郡川 研究会(2003-278) | 平成16年9～10月 | 八尾市文化財調査報告50 | 2005 | |
| 郡川 研究会(KR2004-4) | 平成16年9月～12月 | 八尾市立埋蔵文化財調査センター報告6 | 2005 | |
| 郡川 研究会(2004-251) | 平成16年11月 | 八尾市文化財調査報告50 | 2005 | |
| 郡川 研究会(2005-114) | 平成18年2月 | 八尾市文化財調査報告55 | 2007 | |
| 郡川 研究会(2006-166) | 平成18年9月 | 八尾市文化財調査報告55 | 2007 | |
| 郡川 研究会(2006-516) | 平成19年4月 | 八尾市文化財調査報告57 | 2008 | |
| 郡川 研究会(KR2007-6) | 平成19年4月～5月 | 平成19年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告 | 2008 | |
| 郡川 研究会(KR2007-7) | 平成19年9月～11月 | 平成19年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告 | 2008 | |
| 郡川東塚 市教委(2000-306) | 平成12年11月～13年12月 | 八尾市文化財調査報告46 | 2002 | |
| 郡川東塚 研究会(T2001K OH) | 平成13年10～12月 | 八尾市立埋蔵文化財調査センター報告7 | 2006 | |
| 郡川東塚 研究会(2002-153) | 平成14年08月 | 八尾市文化財調査報告48 | 2003 | |
| 高安古墳群 市教委(94-360) | 平成6年10月 | 八尾市文化財調査報告31 | 1995 | |
| 高安古墳群 市教委(95-586) | 平成8年1月 | 八尾市文化財調査報告36 | 1997 | |
| 高安古墳群 研究会(2004-211) | 平成17年7～9月 | 八尾市文化財調査報告53 | 2006 | |
| 高安古墳群 研究会(2005-3) | 平成17年9月 | 平成17年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告 | 2006 | |

*調査主体 凡例 市教委：八尾市教育委員会 研究会：(財)八尾市文化財調査研究会

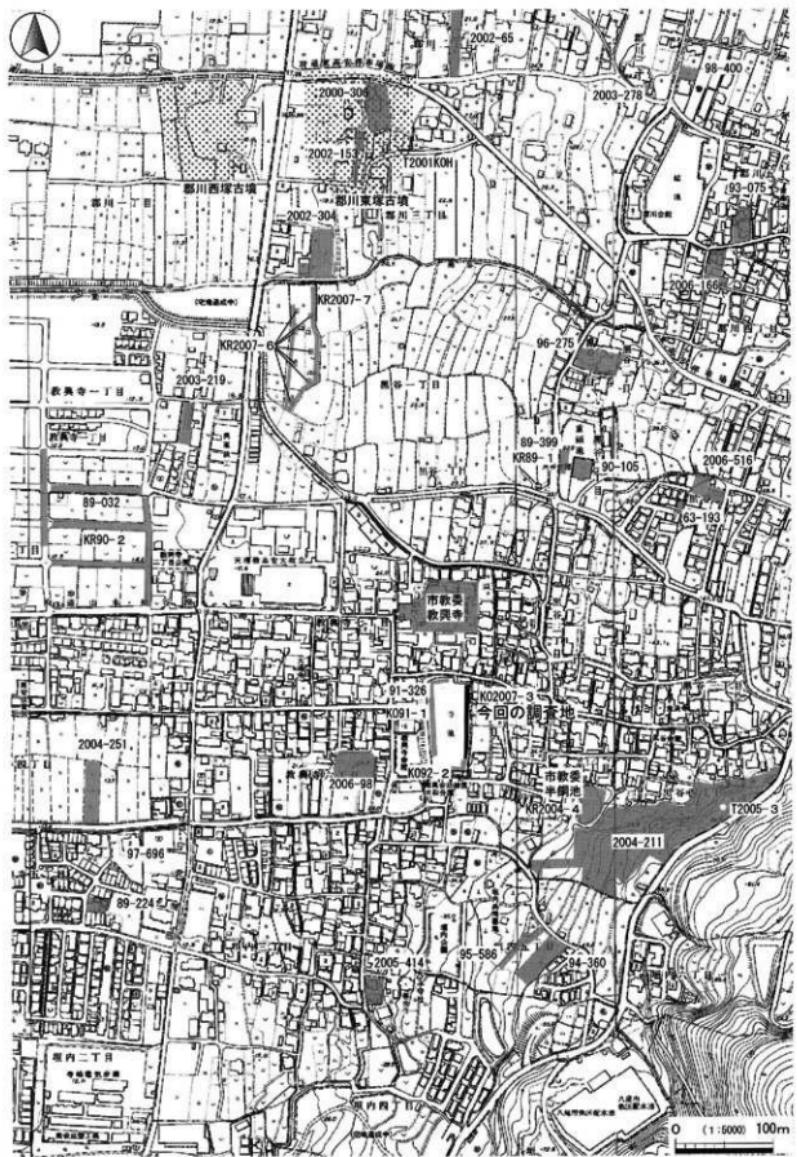


図1 調査地周辺図

第2章 調査概要

第1節 調査の方法と経過

今回の調査は、寺池改修工事に伴うもので、研究会が教興寺跡内で行った第3次調査にあたる。調査は護岸改修する部分(幅約1.7m、長さ約74m、面積約126m²)を対象に行なった。調査区は南北に細長く、掘削土の置き場所が狭いことから、四つの調査区に分割(北から1～4区)し、調査は2区、1区、3区、4区の順に行なった。

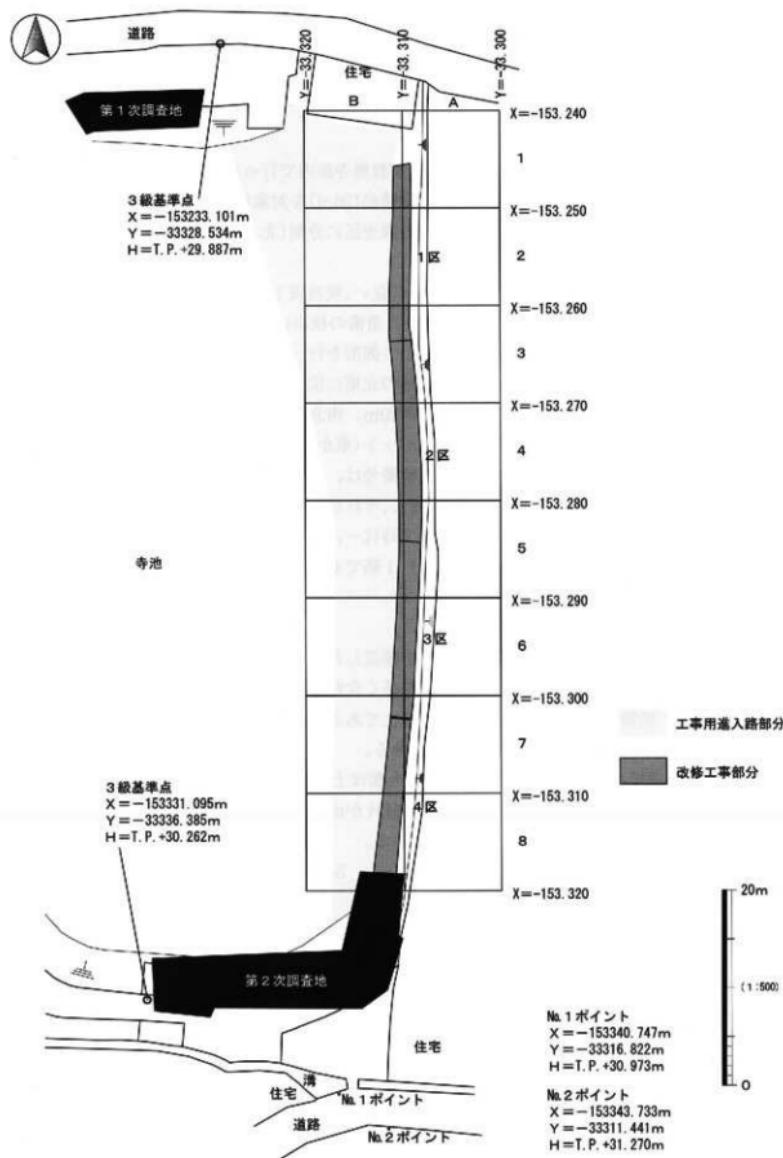
調査にあたっては、市教委の埋蔵文化財調査指示書に従い、現地表下約0.3m前後を機械掘削し、以下1.1m前後の厚みの地層は人力により掘削を行い、遺構の検出に努めた。なお、4区の南部には土石流が堆積していたため、人力と機械を併用して掘削を行なった。調査では、国土座標第VI系を基準に地区割りを行なった。地区割りは、本調査地の北東に位置する座標点(X=-153.240km: Y=-33.300km)を基点とし、本調査地を包括する東西20m、南北80mの範囲に10mメッシュを設定した。北東隅を基点として、東西方向をアルファベット(東からA・B)、南北方向を算用数字(北から1～8)で表し、1A区～8B区とした。遺構番号は、遺構略号の後に3桁の算用数字で表現した。3桁の数字の内、上1桁は遺構検出面を表し、それ以下の桁で遺構の検出番号を示す。

調査の結果、第1面では室町時代、第2面では縄文時代～古墳時代の遺構を検出した。出土遺物量は、コンテナ(縦0.6m×横0.4m×深さ0.15m)1箱である。

第2節 層序

現地表面はT.P. + 28.7m前後で、以下7層の地層を確認した。

- 1層 7.5YR7/6橙色細粒砂～細粒シルト。植物遺体を多く含む寺池の堆積土である。
- 2層 N5/0灰色粘土。植物遺体を多く含む寺池の堆積土である。
- 3層 10YR5/2灰黄褐色細粒砂～粗粒砂の流水堆積である。
- 4層 10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(植物遺体含む)。上面は土壤化している。室町時代の遺構を検出した(第1面)。層内からは奈良時代の瓦の破片が出土した。
- 5層 10YR3/4暗褐色粗～細粒砂。上面は土壤化している。
- 6層 10YR2/1黒色粗粒砂混粘土。上面は土壤化している。5・6層上面で、縄文時代～古墳時代の遺構を検出した(第2面)。
- 7層 5B5/1青灰色細～中疊。土石流堆積。



第3節 検出遺構と出土遺物

第1面では、室町時代の溝2条(S D101・102)を検出した。また第2面では、縄文時代～古墳時代の河川2条(N R201・202)を検出した。

第1面

S D101

8B区で検出した。平面形状は南東～北西方向へ直線に伸び、幅は0.6～0.8mを測る。断面形状は逆台形を呈し、深さは0.1mを測る。埋土は7.5YR3/4暗褐色粘土質細粒シルトで、土師器の破片が出土した。

S D102

7A・B区で検出した。平面形状は南北へ直線に伸び、南部は、西に直角に折れ曲る。幅は0.4～1.0mを測る。断面形状は逆台形で、深さは約0.4mを測る。埋土は5YR3/1黒褐色粗粒砂混粘土(植物遺体含む)で、土師器、瓦器、瓦の破片が出土した。このうち団化したものは1～9である。1～4は土師器小皿の完形品で、5は土師器小皿の破片である。1～4は2段に外反し、口縁部付近で器壁が厚くなり、端部は尖りぎみに丸く終わる。底部は上げ底である。内面はユビナデ。外面のヨコナデは口縁部付近のみで、下半はユビナデを施す。口径は8.0～8.2cm、器高は1.4～1.6cmを測り、ほぼ同じ大きさのものである。室町時代前期の14世紀末～15世紀初め頃に比定できる(阿部1982)。5は内外面ともユビナデで仕上げられている。6・7は丸瓦である。6・7の凹面には布目を、凸面にはナデを施す。8・9は平瓦である。8の凹面には布目を、凸面には縄目タタキを施す。9の凹面には布目を、凸面にはナデを施す。

第2面

N R201

6～8A・B区で検出した。南東～北西へ直線に伸び、幅は19mを測る。断面形状は逆台形を呈し、深さは約0.9mを測る。埋土は、10YR6/1褐灰色細～中疊混粗粒砂で、古墳時代前期の古式土師器が出土した。このうち団化したものは10である。10は高杯で、裾部は「ハ」の字にひらき、端部は上外方につまみ出し、丸みのある面を形成する。内外面ともにユビナデを施す。

N R202

1～3A・B区で検出した。南東～北西へ直線に伸び、幅は10m以上を測る。断面形状は逆台形を呈し、深さは約0.5m以上を測る。埋土は10YR6/1褐灰色中疊混細粒砂で、縄文土器が出土した。このうち団化したものは11～13で、これらは晩期中葉に比定できる。11は深鉢の口縁部で、外面に二枚貝条痕文を施す。口縁部の外面には煤が付着している。12は深鉢の口縁部である。口縁部の外面には強いヨコナデにより段がある。13は深鉢の体部～底部である。

遺構に伴わない出土遺物

4層からは瓦が出土した。このうち団化したものは14である。14は平瓦である。厚み1.3cmを測りやや薄く、色調は青灰色で、硬く焼き締まっている。凹面には布目を、凸面には縄目タタキを施す。この瓦の類例には1次の第②層出土の74(坪田2002)がある。

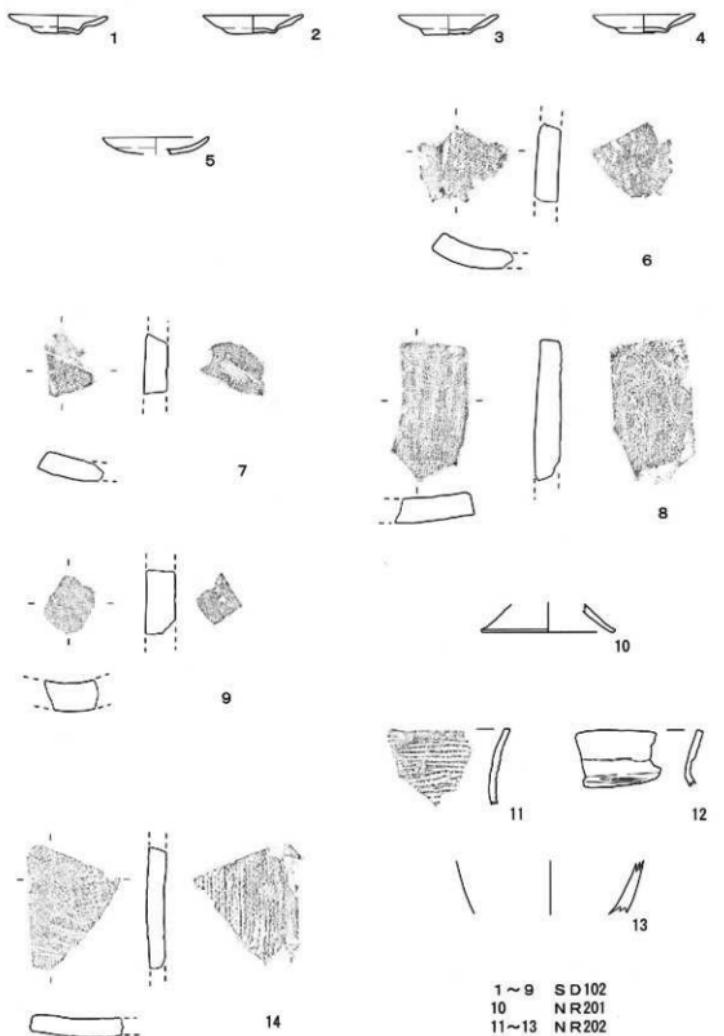


図3 出土遺物実測図

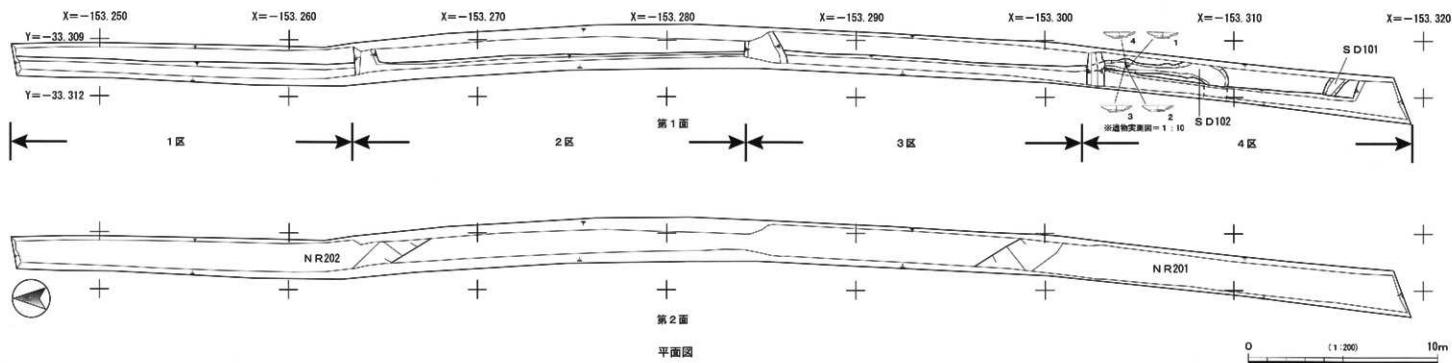
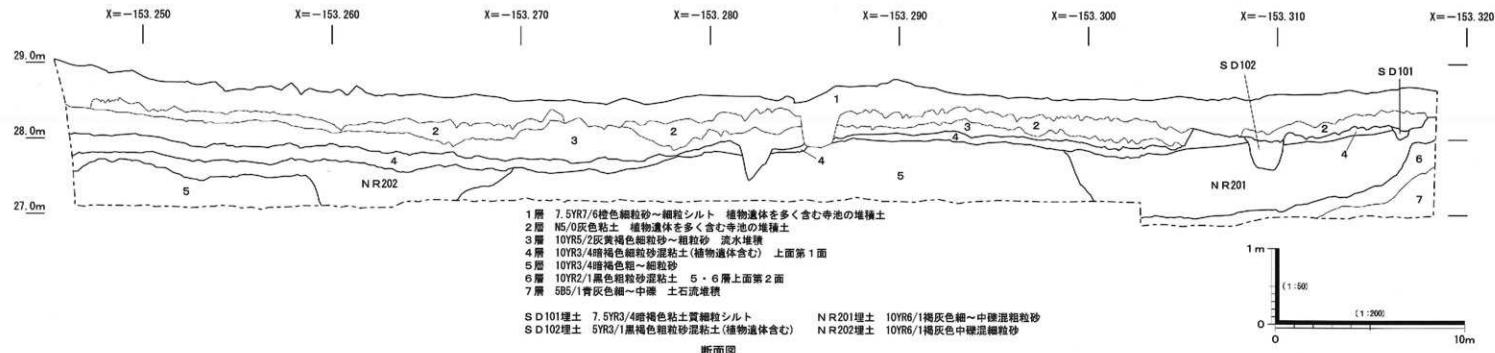


図4 平・断面図

第3章　まとめ

本調査地の北部の市教委教興寺調査では、鎌倉時代末～室町時代初頭の丸瓦が出土し、室町時代の礎石を検出しており、寺域の存在が明らかになった(米田1983)。本調査の第1面では、室町時代前期(14世紀末～15世紀初め頃)に比定できる遺構を検出したことから、教興寺の寺域南部に居住城が広がっていた可能性がある。なお、寺池の築造は室町時代以降と推定される。

第2面の河川2条(NR201・202)は、出土した遺物から、まず調査地北部のNR202が繩文時代晩期に埋没し、南部のNR201が古墳時代前期に埋没したことがわかった。

なお、NR201は地層の検討から、南隣の2次のNR1(基本層序の②層)(坪田2002)に相当し、NR201とNR1は同一の遺構であることが判明した。したがって、川幅は20m以上あったと推測できる。

参考文献

- ・阿部嗣治 1982「VI. 土師器皿編年試案」『若江遺跡発掘調査報告書Ⅰ 本文編』東大阪市遺跡保護調査会
- ・米田敏幸 1983「八尾市内遺跡昭和57年度発掘調査報告書 -教興寺の調査-」八尾市文化財調査報告9 昭和57年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- ・鷲村友子 1987「八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅰ」-恩智遺跡の調査-八尾市文化財調査報告14 昭和61年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- ・清 翟 1992「7. 教興寺跡(91-326)の調査」『八尾市内遺跡平成3年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告26 八尾市教育委員会
- ・坪田真一 2002「教興寺跡〈第1次調査・第2次調査〉」(財)八尾市文化財調査研究会報告72 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・原田昌則 1999「Ⅲ 都川遺跡(第2次調査)」「(財)八尾市文化財調査研究会報告64」「(財)八尾市文化財調査研究会

図 版



調査前(南から)



1区1面全景(北から)



2区1面全景(北から)



3区1面全景(南から)



4区1面全景(南から)



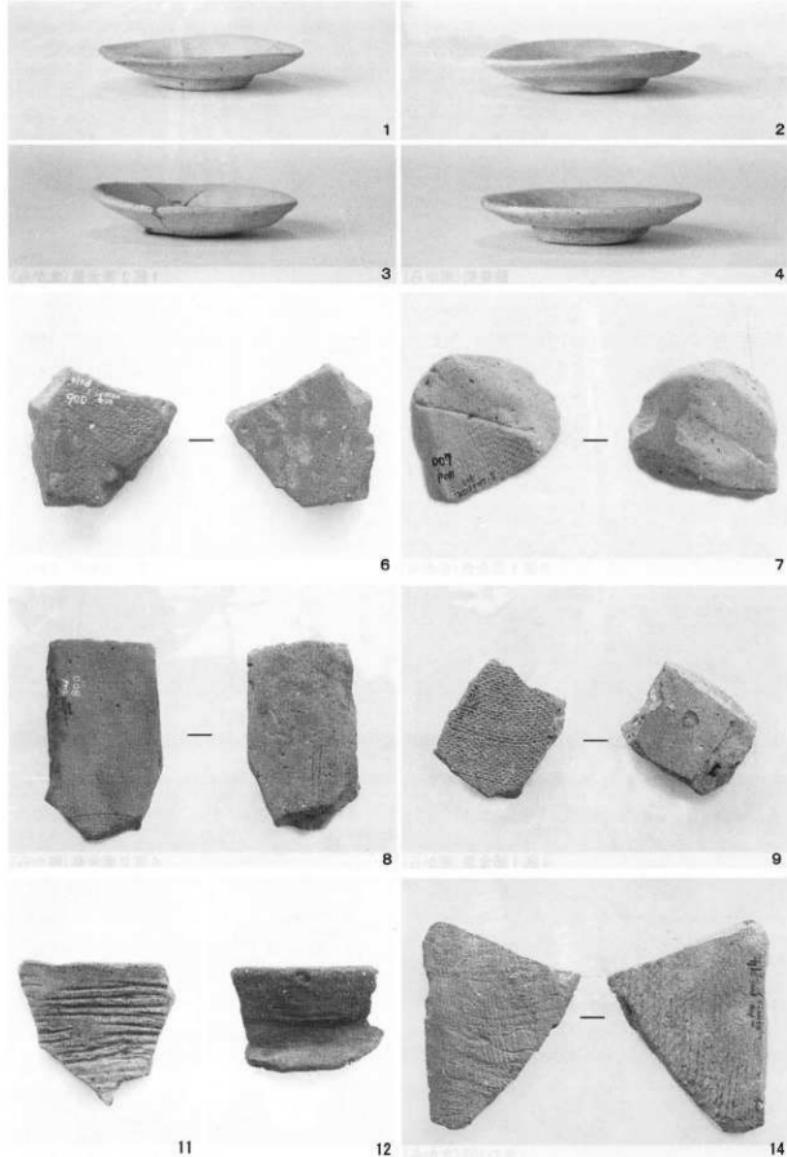
4区2面全景(南から)



SD 102(北から)



SD 102遺物出土状況(北から)



SD102(1~4 6~9) NR202(11・12) 4層(14)出土遺物

報告書抄録

| | |
|------------|--|
| ふりがな 書名 | ざいだんほうじん やおしぶんかざいちょうさけんきゅうかいほうこく119 |
| 副書名 | 財団法人 八尾市文化財調査研究会報告119 |
| 卷次 | 教興寺跡 第3次調査 |
| シリーズ名 | 財団法人 八尾市文化財調査研究会報告 |
| シリーズ番号 | 119 |
| 編著者名 | 西村公助 |
| 編集機関 | 財団法人 八尾市文化財調査研究会 |
| 所在地 | 〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目58-2 TEL・FAX 072-994-4700 |
| 発行年月日 | 西暦2008年12月12日 |

| 所収遺跡 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東經 | 調査期間 | 調査面積 (m ²) | 調査原因 |
|-----------------|--------------|-------|------|-----------|------------|---------------------|------------------------|--------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 教興寺跡 (第3次調査) | 大阪府八尾市教興寺六丁目 | 27212 | 19 | 34度37分03秒 | 135度38分12秒 | 20071219 ~ 20080206 | 約126 | 寺池改修工事 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|-----------------|----|--------------------------|------------------|--------------------|------|
| 教興寺跡 (第3次調査) | 集落 | 窄町時代 古墳時代前期 縄文時代晚期 | 溝2 河川1 河川1 | 土器 古式土器 縄文土器 | |

| | |
|----|---|
| 要約 | 窄町時代の教興寺の寺域南部に広がる居住域の遺構を検出した。また、生駒山地の西麓から平野部にかけてひろがる扇状地を南東～北西に流れる縄文時代と古墳時代の河川を検出した。 |
|----|---|

財団法人 八尾市文化財調査研究会報告119

教興寺跡

第3次調査

発行 2008年12月
編集 財団法人 八尾市文化財調査研究会
〒581-0821
大阪府八尾市幸町四丁目58番地の2
TEL・FAX 072-994-4700

印刷 近畿印刷センター
〒581-0033 八尾市志紀町南二丁目131番地
TEL 072-920-3488
表紙 レザック66 <175kg>
本文 ニューエイジ <70kg>
図版 ニューエイジ <70kg>

